

## 論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3123 号	氏 名	伊藤 雄太
論文審査担当者	主査 矢持 淑子 教授 副査 中田 土起丈 教授 副査 北見 由季 准教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>末梢血単球は細胞表面マーカーにより分類されるが、皮膚肉芽腫性疾患の組織中における分布を検討した報告はない。伊藤らは非感染性の肉芽腫性皮膚疾患における組織球系細胞のサブタイプを免疫組織学的に検討した。サルコイドーシス、環状肉芽腫 各 5 例、顔面播種状粟粒性狼瘡 7 例の生検皮膚に対し、抗 CD14, 抗 CD16 抗体を一次抗体とした免疫染色を行った。次に CD16 とそれぞれ CD14, CD56, CD68, CD11c, Factor X III a の蛍光抗体二重染色法を施行した。その結果いずれの疾患も皮膚病変部においては成熟した CD16+細胞が主体であった。巨細胞についても同様であったが、サルコイドーシスでは CD14+CD16-が 5 例中 1 例あった。蛍光抗体二重染色法ではいずれの病型でも CD16+細胞は CD68, CD11c と大部分一致したが、Factor XIIIa とは一致しなかった。非感染性の肉芽腫性皮膚疾患では巨細胞、マクロファージとも CD16 陽性の成熟型が大多数であったが、肉芽腫の辺縁部には成熟過程にある単球を混じていた。</p> <p>本論文は皮膚肉芽腫性疾患の組織中における単球・組織球の分布に対し新しい知見を得ており、学術的に価値があると考えられ、学位論文に値するものと判断した。</p> <p>論文題名： CD14 and CD16 expression in non-infectious granulomatous skin diseases.          (非感染性肉芽腫性皮膚疾患における CD14, CD16 の免疫組織学的検討)</p> <p>掲載雑誌名： Journal of Cutaneous Immunology and Allergy Vol. 3 No. 1 P. 10-16 2020</p>			

(主査が記載、500 字以内)